
べんりーや (仮)

早川燕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

べんりーや（仮）

【コード】

N3483BA

【作者名】

早川燕

【あらすじ】

便利屋の葉風悠が様々な依頼人の依頼をこなす日々の物語。

この作品は、思いつきで書き始めました。

1 - 1 便利屋、葉風（前書き）

はじめまして、もしくは今作も宜しく願います。
早川燕です。

思いつきで始めた今作『べんりーや（仮）』
そこまで長い作品にはならないかもしれませんが、よろしく願
います。

1 - 1 便利屋、葉風

週末の大通りを黒いコートに身を包んだ、黒い長髪の男が、歩いていた。

時間帯が早朝とまだ早いいため、男のほかに歩いている人影はない。

「さみ…」

男がこのような時間帯に歩いている理由は、仕事だからだ。

男の仕事は、探偵で探検家で医者でハッカー。そして、時にして殺しも厭わない。

報酬次第で何でもやる。いわゆる何でも屋、またの名を便利屋だ。

ちなみに今回の仕事は、捜し物だ。

事情を説明するために少し時をさかのぼる。時は、男が大通りを歩いていた

時の二日前、彼の事務所に、ダンディなおじさんが杖をつきながら、入ってきたところまで遡る。

ガチャッ

男が、デスクワークを淡々とこなしていたところ、急に扉が開かれる。

突然入ってきた、おじさんに男は多少面くらい、文句を述べようとするが、

おじさんの雰囲気はただならぬ物だったため、文句を飲み込み、ソファアーに

座るよう進める。

「どうぞ、おかけください。（と、というか、だれだ？アポもなしに…）」

「失礼する。」

スッと音を立てずに、ソファーへと腰をかける。

「突然押し掛けてすまない、私は春川栄作と申す。早速だが、依頼をしたい。」

「…どうぞ。」

男は、春川栄作と名乗る男の依頼を聞いてみることにしたようだ。

「うむ…実はだな…これを、探してほしいのだ。」

そういつて取り出したのは、一枚の写真だった。

「…拝見させていただきます。」

「どうぞ。」

「では、失礼します。」

写真を見ると、男は息をのみそして、顔を強ばらせた。

「…これは……」

そんな男の表情を見ると、春川は満足げな顔でうすい笑みを浮かべる。

「引き受けてくれるか？」

「報酬次第で。」

「ふむ…なら、これでどうだ？」

春川は、片手を差し出す。

「五万ですか？」

男は、全く足りないと言うような目で春川を見ると、お引き取り願おうとすると

「いや、五百万だ。」

春川から、破格の報酬額が提示される。そのことからこの依頼が、結構大変な物と言うことが、よくわかる。もちろん男もよくわかっている。

しかし、ここで引き下がるのは男の中のプライドが許さない。

「…！わかりました。必ずや探し出しましょう、我が名、葉風悠はかぜゆうの名にかけて。」

1 - 1 便利屋、葉風（後書き）

感想、批判、何でも待っています。

ちなみに、ネーミングも思いつきで行きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3483ba/>

べんりーや（仮）

2012年1月9日00時51分発行